

引き続きガスコンロにしようか？

それともIHコンロに取替ようか？

・・・迷ってます



ガスコンロはそろそろ取替時で、使い慣れてるけど歳もとったので電気のIHコンロに取替ようかと・・・迷ってます・・・と、お尋ねいただくことがありますのでお答えいたします。

なお、弊社は「ガス会社」ではありますが、電力も販売させていただく「新電力会社」でもありますので、Siガスコンロについては客観的にご説明申し上げお客様にご判断いただいております。ぜひご参考下さい。

1. 調理性・使いやすさ

コンロについて

- ①温度調節機能で揚げもの料理での失敗はありません。
- ②トロ火・タイマー機能で煮込み料理に最適です。
- ③湯沸かし機能で自動的に消火して安心・省エネです。
- ④自動炊飯機能で別途に炊飯器がいらず簡単に少量でもおいしいゴハンが炊けます。



グリルについて なんとと言ってもグリルはガス！

- ①オートメニュー機能で焼き加減も簡単おまかせです。
- ②ダッチオーブン・グリルプレートもお使いいただけ、ヘルシーでおいしい料理を簡単にお楽しみ頂けます。
- ③両面焼き水なしワイドグリルで煙・ニオイもカットします。集合住宅でもご近所への心配はご無用です。

使いやすさについて

IHコンロは2つ以上のヒーターを同時に使うと5.8kw以上となって電気内線規程により使用制限され火力が落ちてしまいます。やっぱり永年使い慣れたガスコンロが使いやすいですね！



2. 清掃性・デザイン性

清掃性について

フラット天板でサッとひと拭き、グリルは分解出来て簡単に水洗いも出来ます。

デザイン性について

すっきり先進性のあるデザインで高級感があってキッチンにピタリと調和します。



3.安全性

Siセンサーコンロについて

2008年(平成20年)以降、販売させていただくガスコンロは総てSiセンサーコンロ(全口安全センサー付コンロ)になりましたのでガスコンロに起因する事故は激減しています。

最新ガスコンロの安全性

調理油過熱防止装置

鍋底の温度を感知し約250℃になると自動的に弱火にして油の発火を防ぎます。



立ち消え安全装置

煮こぼれや強風などで火が消えた時に自動的にガスをとめます。

焦げ付き消化機能

煮物調理時に焦げ付きを検知すると初期段階で自動消火します。

コンロ・

グリル消し忘れ消火機能

消し忘れても点火後一定時間が経過した時点で自動消火します。

鍋なし検知機能

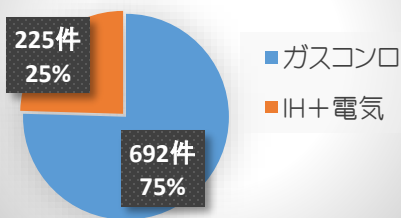
鍋がのっていない状態では点火せず使用中に鍋を外すと自動で小火になり、一定時間後消火します。

他にも、地震発生に備えて震度4以上の揺れを感知すると、コンロを自動的に消化する感震停止機能、音声による音声ガイド、お子様のいたずらや不注意からの点火を防ぐロック機能など、最新ガスコンロには安全を考慮した機能が搭載されています。

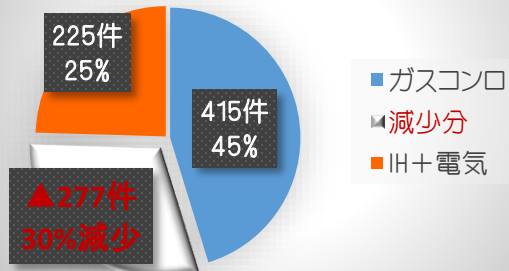
事故発生率について

NITE(製品評価技術基盤機構)によりますと、2010年~2014年の5年間にコンロによる事故は全国で917件発生し、内訳は、ガスコンロによる事故692件、電気IHコンロによる事故121件、電気加熱式コンロによる事故104件合わせて225件となっております。ガスコンロのシェア75%、電気IHコンロ+電気加熱式コンロ(以後、電気IHコンロ等とする)のシェア25%として、ガスSiセンサーコンロ(以後、ガスSiコンロとする)の現状普及率を60%としてガスSiコンロが100%に普及しますと事故発生件数は692件×0.6=415件に減少することになります。

Siセンサーコンロ普及率60% の事故件数(2010~2014年)



Siセンサーコンロ普及率100% となった時の事故件数



全国の居住世帯数5,210万戸(平成25年10月実施総務省住宅・土地統計調査)としますとガスコンロをお使いいただく世帯は3,908万戸、IHコンロ等お使いになる世帯は1,303万戸となりますので、ガスSiコンロによる事故発生確率は415件÷3,908万戸=0.000011(11ppm/5年間)となり、電気IHコンロ等では225件÷1,303万戸=0.000017(17ppm/5年間)となってガスSiコンロによる事故発生指数11に対し電気IHコンロ等による事故発生指数は17となり電気IHコンロ等の方が事故が多く発生することになります。

何れにしてもガスSiコンロの安全性は電気IHコンロ等に勝るとも劣らないことが解ります。加えて、もし、心臓ペースメーカーをお使いの方は電気IHコンロの電磁波被爆に注意されるよう取扱説明書等にも記載されていますので留意しなければなりません。
*(1ppmは100万分の1です)

Siガスコンロ
による事故発生指数

11

電気IHコンロ
による事故発生指数

17

4.設置費用

ガスのSiコンロと電気のIHコンロにおいて価格を比較するのは難しいですが同等なグレードの場合、IHコンロの方が割高です。ビルトインコンロの場合での工事費については①旧ガスコンロを新Siガスコンロに取り替える場合、弊社では処分費も含め取替工事費を1万5,000円いただいています。②旧ガスコンロを撤去してIHコンロに取り替える場合、a.ガス管撤去費(法令上ガス会社が施工させていただきます)5,000円、b.電気工事費(ブレーカー・専用回線工事等)60,000程度が必要となります(公益社団法人 全関東電気工事協会 工事費用の目安参考)。

結果、工事費において、**ガスコンロに素取替する場合15,000円で済みますが、ガス→IHコンロに取り替える場合65,000円程度必要となり割高になります。**加えて、IHコンロの場合、調理時の上昇気流が弱いのでIHコンロ対応のレンジフードへの取替も視野に入れなければなりません。さらに、集合住宅の場合、建物全体の電気容量の問題から大電流を必要とするIHコンロは設置出来ないケースもありますので管理者への問い合わせ等も必要になります。

①旧ガスコンロ から Siガスコンロへの取替費用 → **¥15,000.-**
(*処分費込み/弊社の場合)

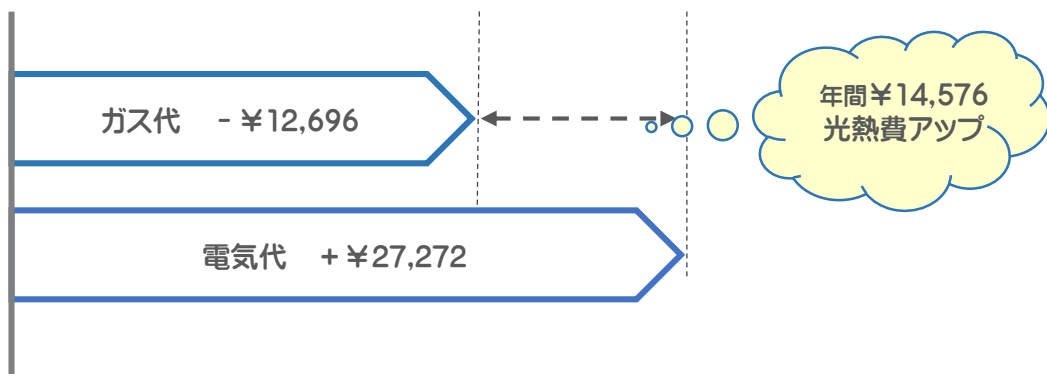
②旧ガスコンロ から IHコンロへの取替費用
a.ガス管撤去費 + b.電気工事費 → **¥65,000.-**

設置費用の差額
約¥50,000

5.維持費

物性の違うガスと電力のランニングコストを比較することは難しいことですが、弊社都市ガスの家庭用の厨房ガス平均使用量をSiガスコンロの熱効率50%、IHコンロ79%(大手ガス会社実測値)としてIHコンロ化における電灯料金でのアンペア基本契約を40Aから60Aに変更して算出しますと、電気使用量が年間684kwh増えて電気代が27,272円増え、都市ガス使用量が年間86.4m3減ってガス代が12,696円減りますが、27,272円-12,696円となって**IHコンロに取り替えることで結果、年間14,576円維持費が高くなってしまいます。**(試算谷口秀男)

加えて、今後、電気料金は「再生可能エネルギー発電促進賦課金」「使用済核燃料再処理費」「電源開発促進税」「福島原発事故に伴う賠償費」等、自由競争下にありますが高くなる傾向にあります。



【弊社が申し上げていること】

現在のガスコンロはSiセンサーガスコンロ(全口センサー付きコンロ)となっており、安全性・清掃性等においてIHコンロに較べて勝るとも劣らず、永くお使いいただくガスコンロで格段使い易くなっていますので、全般的に優位性のあるガスコンロを引き続きお使いいただけますようお願いしています。